

2025 年度 一般選抜入試 A 日程 全学部統一
最高得点科目重視型（2 月 3 日）

英 語

- ① 解答 問 1. イ 問 2. ア 問 3. 2 番目：オ 5 番目：ウ
問 4. イ 問 5. イ 問 6. オ 問 7. イ 問 8. イ
問 9. ウ 問 10. ウ 問 11. ウ 問 12. イ・カ

..... 全 訳

《私をジャーナリストに導いた本》

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

解説

問1. 下線部(1)を直訳すると「どんなことも私を（これ以上）幸せに（今まで）したことはなかった」となる。つまり文法で習う、比較級を使って最上級の意味を表す文である。「最も幸せ」という内容を表すイが正解。

問2. まず空欄Aには述語動詞が入ると見抜いて、イとオを外す。Up until that point「その点まで」は「過去の一点まで」ということだから、過去完了形のAが適切と考える。

問3. 整序した文は No one had ever asked me (this) である。

問4. 選択肢の日本語から第3段第1文 (In short, the book …) の the book で始まる文を指していることがわかるので、全訳を参照のこと。do not tell the whole story は部分否定であり、「すべての物語を語るわけではない」となるので、イが正解である。

問5. occur はここでは「心に思い浮かぶ」という意味である。It は形式主語で that 以下「先生が生徒に嘘をつく」が真主語。よって、イが正解。

問6. オを選び stay up とすれば「寝ないで起きている、夜更かしをする」となり、文意が通る。

問7. 成句 in short は「手短に言えば、要するに」という意味で、イの in brief が同意である。ア.「加えて、さらに」 ウ.「詳細に」 オ.「秘密に、こっそりと」 エは成句でないが、「この中で（は）」となる。

問8. 空欄Cの前も後も文なので、入るのは接続詞である。エとオは副詞なので却下。文意からイの「～だけれども、～にもかかわらず」を選ぶ。〔全訳〕参照。

問9. 下線部(6)の that は直前の to tell these stories を指し、these stories は前文の stories beyond what we see on the surface and what we're taught in school を指す。よって、ウを正解とする。

問10. tolerance は tolerate 「容認する」の名詞形なので、zero tolerance とは「ゼロ容認」、すなわち「まったく容認しないこと」という意味だとわかる。その具体例は最終段第1文 (For my next …) 中にある、遅刻や喫煙が理由で停学処分になることである。したがって、正解はウとなる。

問11. 下線部(8)の It が指す内容は前文中の how one article can have such a direct effect on people's lives だと考えないと、reaffirmed 以下の内容と文意が合わなくなる。よって、ウが正解である。

問12. ア. 第1段第2文 (I know that …) には I don't envy them 「羨ましくない」とあるので、不一致。

イ. 第2段第3文 (The first paper …) に合致する。

ウ. 第2段第4文 (I wrote of …) に不一致。the lack of access to voting booths 「投票所への交通手段の欠如」とある。

エ. 第2段第8文 (She gave me …) に不一致。she thought it would be something I would enjoy 「それは私が楽しむであろうものだろうと彼女は思う」とある。

オ. 第3段第3文 (This made me realize …) に不一致。ベトナム戦争について話し合っていない、つまり扱っていない。

カ. 最終段第2文 (I found that …) に合致する。by 200% の by は「差」を表す用法で、仮にもとの人数が10人だとすると20人増えて30人になるということである。

キ. 最終段第5文 (A local journalist …) に不一致。an updated and more thoroughly researched version of my article 「私の記事をさらに徹底的に調査した最新版」とあり、そのままではない。

2

解答

問1. エ 問2. オ 問3. ウ 問4. ウ 問5. エ

問6. ア 問7. イ 問8. オ

問9. 2番目: オ 4番目: ウ 問10. イ 問11. オ 問12. ア

問13. イ 問14. ウ

..... 全訳

《患者が自分のカルテを読む効果》

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

解説

問1. To maintain at least some eye contact 「少なくともいくつかのアイコンタクト（目と目を合わせること）を維持するために」と、we faced our patients, with the computer between us 「コンピュータが私たちの間にある状態で、私たちは患者に直面した」からエが適切とわかる。

問2. 下線部(2)の changes は「変更、修正」という意味であることは直後の文から推察できよう。その直後に2つ具体例が示されている。1つは、痛みが始まったのは1週間前ではなく3週間前、もう1つはアルコールには最近も依存していること。2つ目だが、カルテには過去のアルコール依存について言及されていたが、彼女が had returned to heavy drinking a couple of months earlier と認めたとあるので、今現在もアルコールに依存していることがわかる。したがって、正解はオ。医師側の間違いではないが、内容を追加で訂正した、ということになる。

問3. 空欄Aの後は完全文なので、文構造上、イの who 以外は入りうる。そこで内容から入ると、患者は過去にアルコール依存症だったが、カルテを一緒に見ることで患者がストレスにより深酒に戻ったと認めたので、診断がはっきりした。そこで筆者は「なぜ」それまでカルテを患者に見せなかったのだろうと思ったわけである。ウの why が正解となる。

問4. 下線部(3)の後の when shared with patients は接続詞 (when) の後に主語と be 動詞が省略されている（その主語は主文の主語と一致する）。そこで、benefits 以下を文章に直すと、they could bring benefits when they are shared with patients となり、患者と共有されるのはウの medical records（カルテのこと）以外に考えられない。

問5. 下線部(4)の can は可能性「～しうる」の意で、エが正解。「ベテランの外科医でさえ手術で失敗しうる」。アは可能「～できる」「『聞こえますか?』『いいえ。もう少し大きな声で話して!』」。イは能力「～できる」「ジェイムスはクラスのどの男子より速く泳げる」。ウは許可「～してもよい」「『電話を借りてもいいですか?』『どうぞ』」。

問6. 選択肢の品詞で下線部(5)の right と同じ名詞はアとイである。ウは person を修飾する形容詞、エは across the street を強調する副詞である。意味上で見ると、アは「権利」で正解。イは「右」である。ア.「次の選挙で私には投票権がない」 イ.「この道を真っすぐに行けば右側に塔が見えます」 ウ.「彼がその仕事にふさわしい人だと確信する」 エ.「その店は通りの真向かいにある」

問7. patients を修飾する few は「ほとんどない」という否定語なので、イが正解。them は records を指し、access は「利用する、入手する」なので、ここでは「閲覧する」でよいであろう。

問8. この実験を始めたのはトム＝デルバンコとジャン＝ウォーカーの2人であることを確認して、アとイを却下する。また、experiment は「実験」なので、この時点でオが正解となる。下線部(7)の直後の let A do は「A に～してもよいと許可する」なので、ウのように「必ず読む」とはならない。

問9. giving patients access to notes が主語で allow A to do の語法がわかれば、would allow them to become が more engaged in their care につながる。

問10. What if ~? は成句で「～したらどうなるだろうか?」という意味になる。ここでは What の後を補って、What (would they [=patients] do) if patients misunderstood the notes? とすれば意味が通る。

問11. striking は「めざましい、著しい」で、同意語はオの noticeable 「顕著な、注目に値する」である。

問12. 下線部(10)は「(緊急治療室での) その日」とあるので、第1段から第4段までに記されている出来事のあった日を指す。正解はアである。

問13. 成句 come up with A は「A を思いつく、提案する」の他に「A に追いつく」もあるが、A が treatment plans 「治療計画」なので、ここではイの「見つけ出す」が適切である。

問14. 空欄Cの直前のコロン（：）は、前述部分についての詳述として使用され「すなわち」の意味になることが多い。ここでは whom the medical record ultimately belongs to 「医療記録が誰に属するか」を指すと考え。医療記録（カルテ）は医師が記録し医師が治療の手立てとするものだったが、本文ではそれを患者と共有することの医療効果について述べていることから、ウの「患者」のものが正解である。

3

解答

1－ウ 2－エ 3－オ 4－イ 5－イ 6－イ
7－イ

解説

1. 使役動詞 get の語法 get A to do / done を問う問題。目的語 his homework を主語にすると動詞は「される」と受動になるので、ウの done が正解。「彼は期限までに宿題を終えることができなかった」

2. 比較の文法項目に all the + 比較級 + 理由 (because, for など) で表す「～なのでそれだけです…」がある。「彼は彼女の性格ゆえにそれだけです彼女を愛していると言う」

3. 前置詞問題。within 「～の範囲内で」を入れると、「その家の建設は3カ月以内に完成するだろう」と文意が通る。他の選択肢はすべて不可だが、もし in があれば「3カ月後に」となり、頻出である。

4. 空欄直後の of につながるのは allow of ～ 「～の余地がある」と approve of ～ 「～を是認する」だけであり、後者が適切。「その大学はキャンパスでの喫煙をまったく認めていない」

5. 「できる（能力・可能）」を表す形容詞の用法を問う問題。通常、be able to do, be capable of doing の形で使う。possible は人を主語にできず、通常 it is possible (for ～) to do の形で覚えておこう。「彼にはその距離全部を走ることはできない」

6. by nature 「生来、本来」は成句。「彼は生まれつき優しい子だ」

7. 誰でも知っている名詞 room は可算名詞で「部屋」だが、不可算名詞だと「スペース、余地」といった意味になる。不可算名詞には単数を表す不定冠詞 (a, an)、複数を表す語尾の s や es はつかない。「その証拠は、それについてはまだ疑いの余地があることを示している」

解説

1. Shall I ~? は「(私が) ~しましょうか?」(提案), Can I ~? は May I ~? と同様「~してもいいですか?」(許可)を表す。「電話を借りる」は use your phone が通常だったが, 現代では携帯電話の場合 borrow your phone でもよい。アの What do you call A? 「Aは何と言いますか?」の A には名詞(句)が入る。イ・ウのように言わない。エの How do you say A? 「Aは何と言いますか?」の A には名詞(句)だけでなく文も入る。以上から, エが正解。

2. アとエはいずれも「なぜ頼むのですか?」の意味になり, 不可。イは What do you say to asking ~? なら正しい。ウの Why don't you do ~? 「~したらどうですか?」は使い方も正しく, 正解である。

3. 「学生たちのほとんど」はアとイが正しい。ウ・エは Almost all (of) the students なら正しい。また, ふつう have (just) been to ~ は「~に行ってきたところだ」, have gone to ~ は「~に行ってしまった」と使い分けるので, アが正解となる。

4. 選択肢はすべて否定形になっているが, 「~に慣れている」は be used to *doing* なので, エが正しい。アの used to *do* の形は正しいが, 「かつて~した」の意である。

5. 「~すぎて…できない」は too ~ to *do* 構文でも, so ~ that S cannot *do* を使っても表すことができる。前者は否定語を使わない否定構文で, そのため意味上の主語を表す for ~ には any は入るが some や no, none は入らないので, イが正しい。ウは impossible の語法が誤っている。大問3の5の〔解説〕参照。エは any が先で not が後にくるのが誤りで, none of the students could read it とすればよい。文尾に it が必要なのは, that が接続詞なので目的語をつけて完全文にしなければならないからである。また, イの read の後に it がないのは, read の目的語が文頭の The book に戻れるからであり, これは不定詞の特徴である。

6. よく似た自動詞・他動詞の活用を問う問題。「横になった」は lay か laid himself, 「うそをついた」は lied が正しい。また, 「昨日」とあるので, 過去形の文でなければならない。イが正解。

7. rob *A* (人) of *B* (物)「*A* から *B* を奪う」を受動態にして「Sally は財布をひったくられた」にすると, Sally was [has been] robbed of her wallet. となる。これを強調構文を使って Sally を強調すると, 過去形の文なら It was Sally that was robbed of her wallet. となり, 現在完了形を使うとウの文になる。したがって, ウが正しい。